

平田建設がインターンシップ受入 今後の進路選択の参考に

土幌高生招き現場見学や体験

【帯広発】平田建設（土幌、長谷川雅毅社長）は21日から3日間、土幌高校のインターンシップに協力した。現場7カ所を回って建設の仕事の様子を間近で見学したほか、測量機器やドローンの操縦も体験。生徒は、地域の安全・安心を守る建設業の役割について



生徒に測量の方法を指導する竹市課長（右）

理解を深めるとともに、今後の進路選択に具体的なイメージを膨らませていた。

今回受け入れたのはアグリビジネス科2年生の中田大貴君。3日間を通して、「富秋土幌川下流地区第1幹線明渠排水路東和基線工区」（帯広開建発注）、「猿別川改修サツチャルベツ川工区」（帯広建管発注）、「畑地帯育成土幌南部第2地区62工区」（十勝総合振興局発注）など現場7カ所を見学した。

今回受け入れたのはアグリビジネス科2年生の中田大貴君。3日間を通して、

富秋土幌川下流地区現場では、現場代理人の竹市友彦土木課長が工事の目的や内容を説明したほか、測量機器の使い方をレクチャーした。

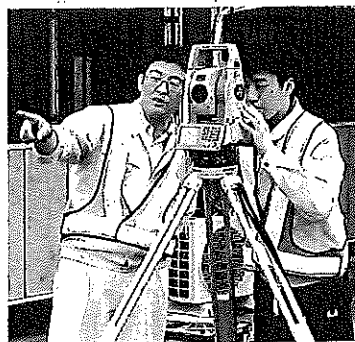
このほか、ドローンの操縦体験や、重機の操縦席を間近で観察。中田君は「建設業は仕事がつらいという印象があった。現場では働く人たちが優しく、思っていたほど大変ではないと感じ、興味が増した」と話していた。

竹市課長は「人材確保・育成のため、土幌高校のような工業系ではない高校生に、少しでも建設業に興味をもってもらいたい。若い人たちが安全に働ける職場づくりが大切」と、安全管理の重要性を再確認していた。

土幌高生1人の インターン受入

平田建設

【帯広】平田建設（本社・土幌）は21日から3



測量業務などを体験した
II写真。

同社で企業概要や建設業について説明を受けた後、富秋土幌川下流地区第1幹線明渠排水路東和

基線工区（帯広開建）や猿別川改修サツチャルベツ川工区（帯広建管）など3日間で7現場を巡った。

中田さんは「建築の現場では多くの人がそれぞれ役割を果たさなくては行かない」と話していた。

日間、土幌高生1人のインターンシップを受け入れた。今回はアグリビジネス科2年生の中田大貴さんが参加。土木や建築の現場を回り、ドローン操縦や